

衰退か、再生か—正念場に立つ日本

日本の地盤沈下が止まらない。リーマンショック後の急激な落ち込みから脱し、ようやく回復基調にあるとはいうものの、主要先進国の中で日本だけがデフレの罠に陥っている。2009年度の消費者物価指数は、前年度比1.6%も下落し、過去最大の落ち込みとなった。1990年代後半から続く長期デフレに克服のメドは立っていないのである。

日本の一人当たり名目GDPは、2000年の世界3位から、2008年には23位に後退。世界経済（GDP）に占めるシェアも、1990年の14.3%から、2008年8.9%へと縮小。

スイスの調査機関IMDが毎年公表する国際競争力ランキングでは、1990年の1位から、2010年は27位へとギリ貧状態にある。

「失われた20年」、結局のところ戦後のキャッチアップ型成長モデルの限界に突き当たっていた日本が、新しい成長・発展モデルに転換できないまま、長期の停滞・閉塞状況から抜けきれないという構図が依然続いているのだ。

その間かつてないスピードで高齢化が進み、人口減で国内市場は縮小。一方日本を取り巻くグローバル環境は劇的に変わりつつある。中国・インドをはじめとする新興国の急速な台頭と世界経済のパワーシフト。IT化とデジタル革命の波は、グローバルな水平分業モデルを可能にし、価格破壊や激しい国際競争を現出しながら、産業・企業の付加価値構造に大きな変革を迫りつつある。

その間隙を突いて、近年韓国の躍進がめざましい。1997年の通貨危機を契機に、国家戦略ともいえる産業構造の再編と集中を断行、当初からグローバル市場に狙いをさだめ、迅速・大胆な投資戦略で、世界のトップシェアを奪いつつある。日本企業は、いわゆる「技術で勝って、ビジネスで負ける」構図を余儀なくされているのだ。

変化への対応力、迅速な意思決定、世界中どこへでも出かけていく行動力・・・失敗を恐れてなかなか動かない日本企業は、勢いのある韓国・台湾・中国勢に押しまわられている印象が強い。

そのような中、ようやく新政権による「新成長戦略～元気な日本復活のシナリオ～」が6月に打ち出された。「強い経済、強い財政、強い社会保障」のキャッチフレーズの中に、これまで旧政権下で幾度となく作られては失敗してきた成長戦略や経済構造改革ビジョンの轍を踏むことなく、もはや後のない改革として経済・財政・社会保障の一体的な建て直しを図ろうとする意思が込められているように思う。

問題意識はクリヤーだ。過去の成功体験から脱却できず、時代と市場の変化に遅れた日本経済・産業の「行き詰まり」を直視し、「今後、日本は、何で稼ぎ、何で雇用するのか」——国と企業、地域、そして国民が総力を結集して、グローバル大競争時代に打ち勝つ新しい成長モデルを構築しようというのが命題で、この時期まさに当を得たものと評価できる。

具体的には、7つの戦略分野（①環境・エネルギー大国戦略、②健康大国戦略、③アジア経済戦略、④観光・地域活性化戦略、⑤科学・技術・情報通信立国戦略、⑥雇用・人材戦略、⑦金融戦略）から、21の国家戦略プロジェクトを定めるとともに、2020年までに123兆円の需要と約500万人の雇用を創出するとの数値目標も示されている。また、この方針策定にあたっては、新政権と連合との重層的な政策協議の場を通じて、働く者の視点からの政策や意見反映が盛り込まれたことについては、特筆すべきことであろう。

最も大事なことは、この成長戦略を通じて、良質な雇用を本当に増やすことが出来るかどうかにある。社会の閉塞感の背景には、雇用不安があり、それが名目所得を抑制し、消費を萎縮させ、景気の足を引っ張る悪循環に陥っているからだ。

ビジョンと方向は決まった。しかし問題は、それをいかに実現し、結果を出していくかに尽きる。そのためには、国民的合意を形成しながら、スピード感をもって具体策を実行する強い政治のリーダーシップが欠かせない。参議院選挙とその後の政治状況を見ていると心配は尽きないが、いまの日本が直面している深刻な状況を考えれば、政局に振り回されているような余裕はとてもない。いまこそ、与野党を含め日本の政治・行政は、この国の確かな舵取りに、その底力を発揮してもらいたい。

と同時に、主役のプレイヤーは、個々の産業・企業・地域であり、それを担う経営者や働く者であることはいまでもない。その意味で労使の責任と役割は大きいと思う。意識を変え、行動を起こし、変化に即応しながらチャレンジをしていく。同時に原点である自らの強みを再確認しながら、それを進化させていく。もう緊急避難の時期は終わった。安売り競争による消耗戦や、後ろ向きのリストラ、人件費抑制に頼った経営に未来はない。反転攻勢に立ち上がり、総力を結集して、生産性や付加価値があがれば、働く者にもきちんと分配するあたりまえの企業行動が、デフレを脱却し自律回復型の成長軌道に日本丸を乗せていく道筋ではないかと思う。

(固筈卯)